

月曜日新聞で、気になった3つのテーマ

自然塾

平成5年に立ち上げた。JR早来駅の近くに自然塾という名前でやっていたが、途中で思学塾に名前を変更した。思学塾というのは、元々、谷村さんの父親が東京でやっていた塾の名前で、江戸時代からずっと寺子屋をやっていた思いを込めて元の名前に戻した。自然塾の名前では7年間、その後は思学塾としてやっていた（現在は建物として残っていない）。



自然塾の建物前にて当時講師だった3人
右から大橋さん、谷村さん、日暮さん
(谷村さんから写真を提供)

北海道で暮らすためには、夢だけでは暮らしていけないです。月謝5、000円の家庭教師をしながら暮らしていきなさい。普通に進学塾をやろうと思いません。自然塾というのは、私たちが北海道の自然に憧れていたもので、名前をつけるなら自然塾にしようということで作りました。開こうと思っただけは、月曜日新聞の主催者の桜木さんや作家の吉川さんたちが「この北海道早来にユートピアを作りたい」、「お前たちと一緒にやりたい」と言っていたんです。北海道の素晴らしさを東京の人に伝えたい、そして、北海道の子どもたちに素晴らしさを改めて感じてもらいたい、それが元になっているのが自然塾です。自然塾でやることは勉強を教えることだけではなく、自然塾を開いたすぐに北海道ミュージックフェスティバルを開催したので、生の音を聴いた

り、自分で演奏したりできるんだよということ子どもたちに伝えました。



しぜんじゅくのページ1面
(月曜日新聞平成7年6月5日第61号)

当時の若い3人の先生方の生の声、感じたことを文章下手でも良いからそれぞれ書いてみようということになり、3人が登場させる場を設けるために作りましたね。NHKの全国放送番組に出演したことで、全国からたくさんの方がまちに来てくれたり、手紙をくれたりしました。お手紙をくれた人たちに向けて返信するような形で伝言板を活用していました。

北海道ミュージックフェスティバル

平成5年〜平成20年まで、ときわ公園で自然塾主催のフェスティバルを開催していた。それ以降は、北海道ミュージックフェスティバル実行委員会主催でやっており、胆振東部地震を機にこの数年間は開催していない。今年からは中止になっていますが、来年度は開催する方向で進めている。

このフェスティバルの目的は、『若者たちにも生の演奏を体験し参加してもらおう！ライブは生き物だよ！』が目的でした。毎年、東京から参加するチームがいました。前



第1回目の北海道ミュージックフェスティバル
(平成5年9月6日 第10号)

夜祭入れて2日間開催していたので、基本的には朝から夕方、その後ステージで打ち上げ、キャンプ場でバーベキューなどもしていました。バンド選定は、まずは学生が優先参加でした。後は、準備や片付け等を一緒にやる、趣旨に賛同したチームのみ参加できました。平成9年には民放取材があり、テレビ放映され盛り上がりました。テレビといったも10分ぐらいでしたが…。

自分自身は最初は裏方に専念していましたが、3年目から東京の仲間と作詞作曲した曲でバンドに参加するようになり、表現する楽しさも知りました。

夢の丘プレイボール館

絵描き、写真、音楽、さまざまな文化的な力のある人たちが発表したり、交流したりする場所。建物の老朽化が進んだことにより、心の中に残っていたかまたそれぞれの夢の丘プレイボール館で集まろうということで平成18年に解散（建物は残っていない）。